

中島 茂・清水 薫, 1951. 地下電話 cable に障害を與えるむねまるくろかみきり *Spondylis buprestoides* Linnaeus に関する調査研究. 熊本営林局・九州電気通信局, 熊本.
中村慎吾. 日本産カミキリムシの食樹と生態. 比婆科学教育振興会, 539 pp.
Švacha, P. & ML Danilevsky, 1987. Cerambycid larvae of Europe

and Soviet Union (Coleoptera, Cerambycidae). Part I. Acta Univ. Carolinae – Biologica 30 (1986): 1–176.

(2022年11月30日受領, 2023年1月31日受理)

【短報】石垣島におけるヤツモンムネビロオオキノコの採集記録

ヤツモンムネビロオオキノコ *Neosternus hisamatsui* (Nakane, 1982) は, 西表島を基準産地として *Microsternus* 属で記載されたオオキノコムシ科の小型種である (Nakane, 1982). Dai & Zhao (2013) は, ヒゴノムネビロオオキノコ *Microsternus higonius* Lewis, 1887 をタイプ種として創設した *Neosternus* 属に, 本種を移すと共に中国からも記録した. 佐々治 (1985) では, 本種の分布を“琉球 (八重山諸島)”としており, 松村 (2022) では石垣島と西表島を分布域としている. しかしながら, 筆者らが調べた限りでは本種の分布に石垣島が含まれているのは松村 (2022) のみであり, 証拠標本を伴った石垣島からの記録は無いものと思われる.

筆者らは, 石垣島産のヤツモンムネビロオオキノコを確認しているため, 証拠標本を伴う記録として報告したい.

報告に先立ち, 貴重な標本を恵与していただいた (故) 青木淳一博士と, 文献調査にご協力いただいた轡田康彦氏, 福富宏和氏に感謝申し上げる.



図1. 石垣島産ヤツモンムネビロオオキノコ.

3 exs., 石垣島バンナ公園, 10. X. 2009, 青木淳一採集, 生川保管; 4 exs., 石垣島於茂登岳林道嵩田線, 10. X. 2009, 青木淳一採集, 生川保管; 1 ex., 石垣市桃里, 12. VI. 2019, 渡部晃平採集, 石川県ふれあい昆虫館保管 (図1).

桃里で採集した個体は, 直径約 3 cm の立ち枯れ (樹種不明) 上に見られた白い菌に付着した 1 個体を採集した.

引用文献

Dai, C.-C. & M.-J. Zhao, 2013. Genus *Microsternus* Lewis (1887) from China, with description of a new genus *Neosternus*

from Asia (Coleoptera, Erotylidae, Dacnini). ZooKeys, 340: 79–106.

松村雅史, 2022. オオキノコムシ科. Pp. 183–185, pls. 45–46. 松村雅史 (編著)・楠井善久・小浜継雄・佐々木健志・青柳 克・吉武 啓, 沖縄甲虫図鑑. 沖縄時事出版.

Nakane, T., 1982. New or little-known Coleoptera from Japan and its adjacent regions, XXXIV. Reports of the Faculty of Science, Kagoshima University (Earth Sciences and Biology), (14) [1981]: 43–53.

佐々治寛之, 1985. オオキノコムシ科 Erotylidae. Pp. 217–229, pls. 35–37, 黒澤良彦・久松定成・佐々治寛之編, 原色日本甲虫図鑑 III. 保育社.

(渡部晃平 920–2113 白山市八幡町戎 3 番地
石川県ふれあい昆虫館)
(生川展行 513–0015 鈴鹿市木田町 2399)
(藤川浩明 905–0212 国頭郡本部町字大浜 884–6
ソレイユ 101 号室 沖丸環境調査)

【短報】滋賀県におけるオニギリマルケシゲンゴロウの記録

オニギリマルケシゲンゴロウ *Hydrovatus onigiri* Watanabe and Biström, 2022 (図1) (以下, オニギリ) はゲンゴロウ科の水生昆虫であり, 本州, 四国, 九州, 対馬, 種子島に分布する (井上ら, 2022). 一方, オニギリによく似たマルケシゲンゴロウ *H. subtilis* Sharp, 1882 (以下, マルケシ) は, これまで本州から南西諸島にかけて分布するとされてきた (中島ら, 2020 など). しかし最近の研究によると, 日本におけるマルケシの記録はオニギリ等



図1. 滋賀県産オニギリマルケシゲンゴロウ.

と同属他種のものである可能性が高い (Watanabe & Biström, 2022; 渡部ら, 2022).

滋賀県からオニギリの記録は未だ報告されていないが (井上ら, 2022), 河瀬 (2007) と村上・中西 (2016) がマルケシの記録を報告している. 筆者がこれらの標本